

## 北海道における HTLV-1 母子感染防止対策の現状

千葉峻三, 佐藤俊哉, 中山 樹

要約 北海道における HTLV-1 母子感染防止の実態を調査し以下の結論を得た。

1. 北海道における妊婦の抗 HTLV-1 抗体保有頻度は平均 0.6% であり、道内では年間 200-250 件程度の HTLV-1 キャリア妊婦の分娩があるものと推定される。
2. 道内の公的医療機関の約 40% では妊婦に対する抗体スクリーニングが実施されているが、母子感染防止に関する一定のガイドラインの作成や検査費用負担の問題が解決されれば、将来検査を実施する予定の施設が多く認められた。
3. 現在大部分の施設では抗体検査の意義を事前に説明していないが、今後感染防止対策をスムーズに施行していくためには、妊婦に対する抗体検査の意義や母乳感染の重要性に関する知識を普及していく必要性が認められた。
4. 一部では確認検査を行わずに告知したり、出生児を隔離して保育している施設が認められた。今後は判定基準や分娩児の取扱に関するガイドラインやマニュアルを作成し関係者への知識の普及に努めていく必要があるものと考えられた。

見出し語：北海道、HTLV-1 キャリア妊婦の頻度、母子感染防止の実態

【研究目的】これまで北海道内における HTLV-1 の母子感染に関する疫学調査は皆無であった。このため道内各地域における妊婦のキャリア頻度を調査するとともに、これまで各施設で実施されてきた HTLV-1 の母子感染防止対策の現状につきアンケート調査を実施した。

### 【研究方法】

(1) 妊婦の抗 HTLV-1 抗体検査

(札幌医科大学小児科)

昭和63年6月から平成2年12月まで、道内各地域の中心都市に存在する12の産科施設を受診した8468名の妊婦を対象とした。11施設ではゼラチン凝集(PA)法で抗体をスクリーニングし、ウェスタンブロット(WB)法と酵素抗体(EIA)法で確認を行った。1施設はEIA法で抗体スクリーニングを実施し、MT-1細胞を利用した間接蛍光抗体(IFIA)法で確認試験を行

った。

## (2) 母子感染防止対策の実施状況の調査

産科と小児科を併設した道内の74カ所の医療機関に対し、キャリア妊婦の診断方法と母子感染予防対策の実施状況につきアンケート調査した。

### 【結果】

#### (1) 北海道各地域の妊婦の抗HTLV-1抗体陽性頻度

PA法およびEIA法による抗体スクリーニング検査の陽性数は86検体であり、確認検査により50例が陽性と判定され、18例が判定保留、18例が陰性であった。全体の抗体陽性率は0.6% (50/8468)であったが、一部地域では1.45-1.13%の高頻度を示すところが認められた。

#### (2) 医療施設における母子感染防止対策の実施状況

アンケート調査を行った74施設のうち59施設(80%)から解答を得た。現在妊婦の抗体検査を実施している施設は26施設(44%)であり33施設(56%)が未実施である。未実施施設の大部分は抗体検査費用負担問題や、告知および妊婦のプライバシーに関する保健指導のガイドラインが完成されていないためであり、将来これらの問題が解決されれば抗体検査を希望していた。抗体検査は大学や衛生研究所等の研究機関に依頼する場合と、商業ラボを利用している施設が半々認められた。後者の検査費用は妊婦の自己負担で実施されていた。25%の施設では事前に抗体検査の意義が説明されており妊婦の同意のもとに実施されていたが、大部分の施設では説明が行われずにスクリーニングが

実施されていた。告知の必要性が生じた場合には、予備知識が全くない状態で告知されるより予め事前説明が行われていた場合の方が結果を受け入れ易い傾向があり、今後ポスターや案内書による事前説明が必要と考えられた。

告知は産科医が妊婦本人に実施している場合が多く、告知時期は63%が妊娠中期あるいは後期までに実施されていたが、37%では初期に行われており確認検査を施行していないものと推定された。約80%の妊婦は人工乳保育を選択したが20%は凍結融解母乳あるいはもらい乳による母乳保育を希望した。

【考案】北海道民の抗HTLV-1抗体保有率は約0.5-0.7%程度であるとされ、また成人T細胞白血病/リンパ腫(adult T-cell leukemia/lymphoma:ATLL)やHTLV-1 associated myelopathy(HAM)の発生件数もHTLV-1の高浸淫地帯である西南日本に比較すると少ない。しかし道内の一部地域の献血材料からは抗HTLV-1抗体陽性血が他地域より高頻度で発見されることや、ATLL患者家族の抗体陽性率が優位に高い事実は、一部地域の家庭内でHTLV-1感染が高頻度に成立していることを示唆しており、母子感染によるキャリア成立の可能性の高いことが伺われる。今後のHTLV-1感染防止対策を策定していくうえでキャリア妊婦の実態調査が必要であった。

8468名の妊婦に対する抗体確認検査の結果は0.6%であり、これまでの一般道民における献血材料から推定された陽性率とほぼ一致した。今回対象とした9地域の陽性率を地域別に観察すると、キャリア頻度の高い地域は0.7-1.45

％を示し、低い地域は0 - 0.48％を示した。年間約4 - 5万件の出産数のある道内では、妊婦のキャリア率が0.6％と仮定すると、年間約200-300件の分娩があるものと考えられ、道内におけるHTLV-1母子感染防止対策の対象数が大まかに把握された。

また分娩をとり扱う医療施設に対するアンケート調査により、道内の母子感染防止対策の現状が明らかになった。すなわち道内の約40％の産科施設ではPA法を使用した妊婦の抗HTLV-1抗体スクリーニングが実施され、大部分の施設では確認検査を施行した上で告知が行われていた。しかし一部施設では確認検査を実施せずに告知を行っている例も認められ、今後判定方法に関する知識の普及と改善が必要であることが伺われた。

また道内の妊婦のHTLV-1母子感染に対する関心と知識は乏しく、今後母子感染防止対策をスムーズに実施していくためには何等かの方法で妊婦への知識の普及が必要と考えられた。現在道内で実施されている抗体検査方法は施設によりバラバラであり、判定方法についても統一性に欠けているのが現状である。今後抗体判定基準や告知方法、出生児の取扱いを含めたガイドラインの作成と検査システムの確立を計っていく必要性が認められた。

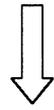
#### 【文献】

- (1) 岩永未知代、他：北海道の成人T細胞白血病とその周辺疾患における成人T細胞白血病ウイルスの関連、北海道医学雑誌 60:865-870 1985
- (2) 権吉源、他：非多発地北海道における成人T細胞白血病ウイルス抗体の検索、北海道医学雑誌 60:871-875、1985
- (3) 岩永未知代、その他：北海道の成人T細胞白血病患者家族における成人T細胞白血病ウイルスの浸淫度 北海道医学雑誌 60:876-884、1985



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 北海道における HTLV-1 母子感染防止の実態を調査し以下の結論を得た。

1. 北海道における妊婦の抗 HTLV-1 抗体保有頻度は平均 0.6%であり、道内では年間 200-250 件程度の HTLV-1 キャリア妊婦の分娩があるものと推定される。
2. 道内の公的医療機関の約 40%では妊婦に対する抗体スクリーニングが実施されているが、母子感染防止に関する一定のガイドラインの作成や検査費用負担の問題が解決されれば、将来検査を実施する予定の施設が多く認められた。
3. 現在大部分の施設では抗体検査の意義を事前に説明していないが、今後感染防止対策をスムーズに施行していくためには、妊婦に対する抗体検査の意義や母乳感染の重要性に関する知識を普及していく必要性が認められた。
4. 一部では確認検査を行わずに告知したり、出生児を隔離して保育している施設が認められた。今後は判定基準や分娩児の取扱いに関するガイドラインやマニュアルを作成し関係者への知識の普及に努めていく必要があるものと考えられた。